

2025 年度 品質工学会 矢野宏賞 応募書

応募年月日 年 月 日

(応募期日 2025 年 12 月 31 日)

一般社団法人 品質工学会

会長 佐藤 吉治 殿

1. 応募者

応募者名：

ふりがな：

会員 No：

所属：

連絡先（〒 ）

TEL：

E-mail：

- ・ 応募者名，ふりがな，会員 No，所属，連絡先を記載
- ・ 申請内容に対する不明点などの連絡に使用

2. 受賞候補者

候補者名：

ふりがな：

会員 No：

所属：

連絡先（〒 ）

TEL：

E-mail：

- ・ 少なくとも 5 年以上品質工学会に属し、継続して品質工学に関わる活動していること
- ・ 受賞候補者は応募者と同一でも構わない（その際は「同上」と記入）
- ・ 受賞の際の連絡先として使用

3. 推薦理由の概要

- ・ 賞の主旨に鑑みて，運営状況，教育状況およびその業績をもとに，推薦理由の概要を記載
- ・ 具体的な内容は，「4. 推薦理由となる具体的実践・業績内容」以降で記載するため，ここでは概要、ポイントのみを記載する

4. 推薦理由となる具体的実践・業績内容

具体的実践・業績内容について、以下の5項目について記載をすること。

具体的実践・業績内容①：【 】

項目	内容
1.運営実績	
2.巻き込み度	
3.教育実績	
4.指導の影響力	
5.その他、特筆すべき事項	

主要カテゴリーを記載する

例：〇〇研究会における活動

〇〇会社における品質工学推進

〇〇学校における人材育成

具体的実践・業績内容②：【 】

項目	内容
1.運営実績	
2.巻き込み度	
3.教育実績	
4.指導の影響力	
5.その他、特筆すべき事項	

- ・次ページの各項目の説明を参考に、表内を埋める。
- ・主要カテゴリーが3つ以上ある場合は、表を増やして記載する。
- ・複数にまたがる内容がある場合は、片方のみに記載すること。
- ・過去 20 年以内の活動内容が評価の対象となる。

・品質工学会 HP、品質工学会誌以外の情報を記載した場合は、それを説明できる情報元を記載、もしくは添付すること。HP で公開されている場合は URL を記載し、そうでない場合は PDF ファイルなどの電子媒体にて、本応募書と共に提出すること。

※本応募用紙への記入方法については、応募書作成ガイドをご確認ください。

※応募受付メールアドレス： award@rqes.or.jp

以上

【各項目の説明】

1.運営実績（運営側、幹事、企画、事務局）

- ・社内での品質工学推進体制の運営実績（論文紹介、社内報）
- ・研究室や、研究会、地方研究会（学会誌の活動実績報告など）
- ・新規品質工学教育の立ち上げ実績

技術者をつなげる“きっかけ”となったものを記載する

そして、それらが客観的にわかる情報を添付する

- ・〇〇社における品質工学推進（学会誌 Vol 1, No.2, P34）
- ・〇〇研究会開催 2025 年〇回、2024 年〇回（学会誌 Vol 5, No.6, P78）
- ・地域向け品質工学入門講座開催（パンフレット、URL：〇〇）

2.巻き込み度

- ・異なる分野の技術者をつなぎ、相互に研鑽をする実践的な場の提供
- ・つなげて成果まで結び付けたという情報の提供（論文や報告書）
- ・産学連携や異業種連携の具体例（論文）
- ・自身以外の組織との連携数（社内他部署は除く、関係会社、子会社は他の組織とする。）
- ・品質工学会以外での受賞

公的研究費獲得（複数組織が連携した活動）

技術者がつながった品質工学の内容の“成果”を記載する

そして、それらが客観的にわかる情報を添付する

- ・〇〇論文の共著に名前がある
- ・産学連携の発表、公的レポートなどに、受賞対象者と、複数の部門、団体名が記載されている
- ・他学会での発表や受賞などがある
- ・〇〇の研究への適用（学会誌 Vol 1, No.2, P34）
- ・〇〇学会、〇〇の研究、〇〇学会誌、P〇〇

3.教育実績

- ・多くの技術者に品質工学の教育を継続して実施した内容
- ・品質工学の教育をしていることが分かる資料の提出

教育を“行った”実績について記載する

教育実施期間、回数、内容がわかる情報を記載する

- ・社内、学校教育カリキュラムの提出
- ・論文にて、教育プログラムの説明や、指導と受け取れる内容の記載
- ・社内における品質工学の指導（HP 掲載）
- ・研究会での教育実績

4.指導の影響力

- ・指導（研修会、セミナー、講義）を受けた人からの謝辞のカウント（個人名の記載）
- ・教育や指導を受けた者の学会発表や論文の執筆など、具体的な成果物
- ・指導を受けた者の品質工学会外での情報発信（社内報掲載など）

指導を受けた技術者の、その後の品質工学の活動状況を記載する

そして、それらが客観的にわかる情報を添付する

- ・学会発表（教育や指導を受けた者が研究発表している）
- ・指導を受けた技術者が、指導者となり、次の人材育成をしている
- ・現在も品質工学を使っていることがわかる情報、資料

5.その他、特筆すべき事項

・特にアピールしたい事項（運営実績、巻き込み度、教育実績、指導の影響力以外）の追記事項(日本規格協会の事業への貢献、高い質の研究の実施、広範囲な共同研究、など)

- ・〇〇に関する活動で、品質工学の認知を広めた
- ・〇〇の研究において、学会にて受賞履歴がある
- ・総合知（内閣府主導）への参画、事例貢献

6.記載例

具体的実践・業績内容①：【〇〇社における品質工学推進】

項目	内容
1.運営実績	・ 〇〇社における品質工学推進（学会誌 Vol 1, No.2, P34）
2.巻き込み度	・ 産学連携で行った〇〇の研究への適用（学会誌 Vol 5, No.6, P78） ・ 他学会の〇〇学会 学会誌に掲載（2018 〇〇誌 P12） ※添付ファイル 1 参照
3.教育実績	・ 〇〇社内報にて実績を公開 URL ・ 社内教育カリキュラム（項目のみ抜粋） ※添付ファイル 2 参照
4.指導の影響力	・ 指導を受けた〇〇社の△△氏の論文 〇〇の研究（学会誌 Vol 3, No.4, P56） ・ 指導を受けた〇〇学校の□□氏の論文 〇〇の研究（学会誌 Vol 3, No.4, P56）
5.その他、特筆すべき事項	・ 品質工学推進において、△△会社と技術交流実施

具体的実践・業績内容②：【〇〇研究会における活動】

項目	内容
1.運営実績	・ 品質工学研究会活動報告（学会誌 Vol 1, No.2, P34） ・ 品質工学研究会活動報告（学会誌 Vol 5, No.6, P78）
2.巻き込み度	・ 産学連携で行った〇〇の研究への適用（学会誌 Vol 2, No.3, P45）
3.教育実績	以下の研究会にて指導 ・ 品質工学研究会活動報告（学会誌 Vol 1, No.2, P34） 以下のセミナーにて講師 ・ 品質工学入門セミナー（2015 年 3 月 〇〇研究会主催）
4.指導の影響力	・ 指導を受けた〇〇社の□□氏の論文 〇〇の研究（学会誌 Vol 3, No.4, P56） ・ 指導を受けた〇〇学校の△△氏の論文 〇〇の研究（学会誌 Vol 3, No.4, P56）
5.その他、特筆すべき事項	・ 指導を受けた□□氏が、品質工学論文賞を受賞（2020 年 〇〇の研究）

※添付ファイル 1_他学会の〇〇学会 学会誌に掲載.pdf

※添付ファイル 2_社内教育カリキュラム（項目のみ抜粋）.docx